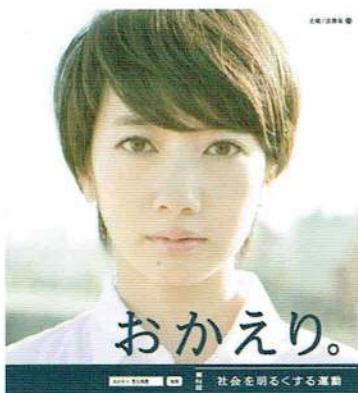


保護司会会報

発行 ■ 西多摩地区保護司会 会長 吉澤洋子 編集 ■ 西多摩地区保護司会広報委員会 発行日 ■ 平成27年3月15日



■ 夕闇の遊歩道（福生市南田園）



目次

東京都保護司会連合会顕彰式典	2
多摩地区保護司会連絡協議会受彰祝賀会	3
西多摩地区保護司会新年会	4~5
地域活動推進協議会の講演会	6
薬物依存に関して 保護司会と更女の協議会	7
会務報告 福生・日の出ブロック研修 社会貢献活動	8

東京都保護司会連合会 顕彰式典

文と写真 広報部 武内 昌一

更生保護に尽力した関係者の功績を顕彰し謝意を表す、平成二十六年度の東京更生保護事業関係者顕彰式典は、十一月二十六日（水）、東京都保護司会連合会外七団体の主催で、葛飾区のかつしかシンフォニーヒルズにおいて被顕彰者及び参列者等約一、六〇〇名が参加して盛大に開催された。

開会のことばの後、物故者への默とう、実行委員長の祝辞、葛飾区長の歓迎のことば等を経て、顕彰が開始。春秋の叙勲表彰を筆頭に法務大臣表彰他十五部門への表彰状、感謝状及び記念品が伝達並びに贈呈がおこなわれた。

顕彰式の終了に続い、法務省保護局長、東京都知事（代読）、東京地方裁判所長の祝辞、次期開催地北区保護司会の会長のあいさつで式典は幕を閉じた。

以下、式典の会場風景と当地区で受彰された方々です。



感謝状及び記念品等の贈呈と伝達

式典風景

被顕彰者

藍綬褒章受彰

梶 喜太郎
(青梅分区)

法務大臣表彰受彰

岸野 穣
(あきる野分区)
高橋 秀夫
(瑞穂分区)

法務大臣感謝状

小野 静江
(瑞穂町更女)
合川 哲夫
(あきる野分区)

更生保護女性会

全国保護司連盟理事長表彰
平山 和治
(瑞穂分区)
秋山 克明
(福生分区)
白井 正夫
(あきる野分区)
江川 功
(瑞穂分区)
遠藤 洋子
(瑞穂分区)
大谷 邦夫
(福生分区)
木村 とみ江
(瑞穂分区)

関東地方更生保護委員会委員長表彰

春原 鈴木	近藤 小林	木村 川津	乙津 大野	大谷 遠藤	江川	白井	秋山	合川	小野
玉恵 忠茂	佐田 登代子	佐田 喜代子	一良	邦夫	功	正夫	克明	哲夫	静江
(羽村分区)	(福生分区)	(福生分区)	(青梅分区)	(羽村分区)	(福生分区)	(瑞穂分区)	(福生分区)	(瑞穂分区)	(瑞穂分区)
(あきる野分区)	(福生分区)	(福生分区)	(青梅分区)	(福生分区)	(瑞穂分区)	(あきる野分区)	(福生分区)	(あきる野分区)	(青梅分区)

中村 紹男 (青梅分区)	細田 忠昭 (青梅分区)	三ツ木謙三郎 (青梅分区)	森下 茂樹 (青梅分区)	諸井 多美子 (青梅分区)	山田 みな (日の出分区)
福島 德秀 (瑞穂分区)	松本 則夫 (日の出分区)	本橋 義雄 (青梅分区)	森本 久仁子 (青梅分区)	山森 健吉 (青梅分区)	
廣司 濱中 並木 関谷 指田 木村 佐久間砂由利 (福生分区) (羽村分区) (日の出分区)	治男 賢次 邦雄 和子 (瑞穂分区) (福生分区) (羽村分区)	澤井 忠 (瑞穂分区) (青梅分区)	柳内 吉野 俊次 田中 昭治 (青梅分区) (松原分区)	村野 村上 藤谷 知久 田中 英一郎 (青梅分区) (青梅分区) (青梅分区)	柳内 吉野 俊次 田中 雅代 (瑞穂町更女) (瑞穂分区)

関東地方更生保護委員会 委員長感謝状

更生保護女性会員

中野 満子 (羽村市更女)
関東地方保護司連盟会長表彰

小峰 恒夫 (瑞穂分区)

原島 一彦 (あきる野分区)
森田 蟲 (羽村分区)

横田 宮林 (羽村分区)
新井 節子 (日の出更女)

東京保護観察所長表彰

井上 基 (あきる野分区)
(日の出分区)

木村 指田 (青梅分区)
(奥多摩分区)

佐久間砂由利 (瑞穂分区)
(青梅分区)

柳内 吉野 (瑞穂分区)
(青梅分区)

柳内 吉野 (青梅分区)
(松原分区)

田中 雅代 (瑞穂町更女)
(瑞穂分区)

東京保護観察所長表彰

中野 満子 (羽村市更女)
関東地方更生保護女性連盟会長表彰

東京都保護司会連合会会長表彰

更生保護女性会

数野 若江 (青梅奥多摩更女)
原島 任子 (福生市更女)

井上 忠男 (羽村分区)
大久保 雄二 (奥多摩分区)

大野 河邊 (福生分区)
河邊 篤子 (青梅分区)

川勝 倉持 (青梅分区)
倉持 恭子 (羽村分区)

島田 瞳 (羽村分区)
島田 瞳 (青梅分区)

田中 知久 (羽村分区)
田中 知久 (青梅分区)

藤谷 一成 (羽村分区)
藤谷 一成 (青梅分区)

柳内 立自 (羽村分区)
柳内 立自 (青梅分区)

柳内 光治 (羽村分区)
柳内 光治 (青梅分区)

吉野 俊次 (羽村分区)
吉野 俊次 (松原分区)

東京保護観察所長表彰

家族功労者

江川 紘子 (あきる野分区)

民間篤志家

有限公司 宅建企画

多摩地区保護司会連絡協議会 受彰祝賀会

広報部 武内 昌一

多摩地区で平成二十六年度において
叙勲、褒章、法務大臣表彰、全国
保護司連盟理事長表彰を受彰された
保護司の功労を祝う受彰祝賀会が、
平成二十六年十二月五日（金）、立

川グランドホテルで多摩地区保護司
会連絡協議会（以下「多摩連」とい
う）の主催によって開催された。
祝会には、多摩連に加盟する多摩
地区九保護司会から被受彰者四十九
名、理事、来賓等一一二名が出席。
森久保多摩連会長及び荒木東京保護
観察所長のあいさつの後、主催者か
ら受彰者が紹介され長年にわたる保
護司活動への貢献と受彰への祝福を
述べられた。

次第の第二部であいさつに立てられ
た南元英夫東京保護観察所立川支
部長が、法務省を代弁して保護司活
動への感謝と同省ができる感謝の
“じるし”としての感謝状や記念品
を贈呈することで受彰者に対しても
意の気持ちを表したこと告げられ
た。祝賀会はお楽しみ抽選会等を経
て盛大のうちに閉会した。



荒木東京保護観察所長のあいさつ

森久保多摩連会長のあいさつ

会場風景

西多摩地区 保護司会新年会

広報部 服部 重守

大寒を迎えた日本列島、都心でも雪が舞う厳しい新春。一月二十一日（水）青梅市福祉会館で、恒例の西多摩地区保護司会新年会が一三五名の参会者が出席して盛大に開催された。

各テーブルに吉澤会長の計らいで西多摩八分区の更なる振興を願い福豆と折り鶴が供えられた。江川総務部長の進行で新年会は始まった。最初に青梅分区女性保護司十名のコラスグループ（ブループラムレディース）が「早春賦」を合唱し、会を盛り上げスタートした。

会長の年頭のあいさつ、東京保護観察所立川支部南元支部長のあいさつ、西多摩地区更生保護観察協議会会長竹内青梅市長からの保護司への労いの言葉等（池田副市長代読）の後、昨年委嘱された新任保護司十名（一人欠席）が登場し会員に紹介された。

懇親会に移り、余興としてあきる野分区の有志による「東京だよおつかさん」が演じられて会場を割れんばかりの笑いに誘い、宴会を大いに盛り上げた。八分区長の手縫で平成二十七年の新年会は心新たに新年を祝い閉会した。



会場風景



オープニングセレモニー
ブループラムレディースによる
開会合唱

あいさつ集



南元立川支部長



森久保多摩連会長



吉澤会長



平成二十六年度に委嘱された
新人保護司の方々



余興
東京だよおつかさん



観察官による手継



八分区長の手継

地域活動推進協議会の講演会

地域活動部 吉野 俊次

二月二十一日（土）午後二時よりあきる野市「秋川ふれあいセンター」で今年度の地域活動部による講演会を開催しました。保護観察所立川支部より石井法子統括観察官、小川主任官、市町村担当課長のご出席をいただき、保護司、更生保護女性会員、民生児童委員他一七六名が参加されました。

今回の講演は、八王子ダルク（※注）施設長加藤隆氏と川崎ダルク職員近藤伸夫氏による「薬物依存症からの立直り支援の取組み」でした。

最初にお二人から自らが薬物依存症へと入りこんだきっかけ、そこからのお経緯、そして脱却、克服への道のりを赤裸々に語つていただきました。お二人がもがき苦しんでいた時に出会ったのが「ダルク」という民間の薬物依存症リハビリ施設です。お二人はそこで克服、回復へと進まれたのですが、ダルクでは依存症からの回復への取組みを様々なプログラムを作つて実行しています。まず苦しんでいる同じ仲間が居て精神的にも安心して過ごせる場所であること、そして共同生活等を通して回復への道を探ること

などから始まる。加藤氏は薬物依存症は病気であるということを本人も周囲も理解、認識し回復へ向かっています。講演後質疑が行われ、現在危険ドラッグや麻薬等が引き起こす犯罪や事故が少なからずあります。加藤氏は薬物による犯罪防止には法による規制は勿論必要ですが、同時に依存症等の人達への立直り支援の面へも国等が力を入れてほしいと話していたのが印象的でした。

今回の講演内容は対応の難しい薬物依存症でしたが、今後の保護司活動に活かしていきたいと思います。講演会の終りに、小川主任官より統括的なお話を聞いていただき講演会を終了しました。

薬物依存症の体験や立ち直りを力説する
加藤隆講師



同じく近藤伸夫講師



薬物依存に関するある一つの考え方

広報部 濱中 賢次

広く知られていますように、覚せい剤、大麻、麻薬、危険ドラッグ等の薬物を吸つたり、飲んだりすると心と体に悪い影響があります。

この覚せい剤をはじめとする薬物が、中学生・高校生にまで乱用されているとの報告があり、青少年健全育成や薬物乱用のない社会を目指す観点から、大きな課題となっています。

薬物に関して、よく聞くことに「乱用」「依存」「中毒」があります。乱用は「クスリ」を本来の目的（病気の治療）以外に使うこと。依存は、乱用を繰り返して、脳に異常が起きやめられなくなつた状態です。薬物依存が、さらに乱用を続けて体に慢性的に異常が起きた状態が中毒です。

ここでは、薬物を繰り返し使用、自分でやめられない状態（薬物依存症・自分で自分の心と体をコントロールできない病気）、薬物依存を中心に考えます。

覚せい剤や大麻等、依存性の高い薬物は、乱用を繰り返すと脳に異常を起こします。違法薬物により脳に

影響を及ぼし、やめたくてもやめられない（依存）、無気力でだらしない。言葉づかいが乱暴になる、幻覚・幻聴・妄想等をもたらし、家族、友だちを失い人生がダメになる恐れがあります。

次に、薬物依存の背景、違法薬物に手を染めるようになつた要因を考えます。その要因は多様化していますが、依存状態の根本を家族問題とする指摘があります。

子に無関心な親、未熟な親、理不尽な親のもとで育つた子、母子の愛情関係が低い状態で育つた子等は可能性として考えられます。また、快不快でやっている人、学校や家庭に心の居場所が無くなつた人、規範意識の低下等様々です。

薬物をやめる人、やめられない人がいる中で、薬物をやめるよう変わるために、どんな力が必要であるか。

薬物に手を染めてしまつた要因に家族がありました。その観点から親子関係の充実を図ることや、たつた一人でもいい、薬物依存者の多くは孤独感で心がいっぱいです。よつて、孤独感を理解できるよき理解者や支援者が求められます。

活発な意見交換があり、とても有意義な時間でした。

保護司会と更生保護女性会との協議会

日の出更女 田中 太子

二月十八日（水）西多摩地区保護司会と西多摩地区更生保護女性会の連絡協議会が、西多摩フレッシュランドに於いて開催されました。

両団体の役員三十七名が出席し司会者の開会の言葉の後、保護司会の吉澤会長から「お互いの活動に心を寄せながら、より良い活動を目指して頑張りましょう」とのあいさつがあり、

続いて更生保護女性会の小野会長から「今年は更生保護女性会創立五十年記念の年なのでご協力をお願ひします」とのあいさつがありました。

その後協議に入り、社明・研修等での相互の協働状況について、分区分ごとに発表を行いました。さらに今後の両組織の有り方について、更女性会からは、相互のスマーズな意思疎通を図るため、女性保護司の更女理事参加の要望があり、保護司会からは、講演会・イベント等への積極的参加を、また今年度より実施される社会貢献活動には、互いに関心を持ち協力していくとの要請がありました。



会務報告

お知らせ

西多摩地区保護司会総会

平成二十七年四月三十日（木）

青梅市役所 二階

午後二時十五分

退任保護司（敬称略）

保護司活動への奉仕ありがとうございました。

平成二十六年十二月二十一日付

桑田 孝一（青梅分区）
定年退職
在職 三十二年

田村留美子（羽村分区）
在職八年

悼

左記の方がご逝去されました。
生前のご功績を偲び、謹んで、ご冥福をお祈り申上げます。

（合掌）

島貫満征様（福生分区）

平成二十六年十二月二十五日逝去
享年 六十九歳
在職 九年七ヶ月



ブロック別研修を受講して

広報部 齋藤 徹

平成二十五年一月二十八日（水）、
日の出町役場において福生・日の出
ブロックのブロック別研修が開催さ
れました。

講師は、平成二十六年五月に保護
司を退任された大串國廣先生で、研
修テーマを「思いの丈」と題して、研
修中の生き立ちからこれまでの歩み
を通して保護司のあり方を語ってい
ただきました。

特に、少年期の親兄弟との死別か
ら青年期の数々の体験により奉仕の
精神が育まれ、後の保護司活動に至
つたことなどが印象に残りました。

研修の受講者は、各分区の保護司
はもとより日の出町の幹部職員の方
も聴講され五十名を超える参加者で
した。

この研修に際し、事前の準備をし
て頂いた日の出分区の松本分区長は
じめ日の出分区の皆様有難うござい
ました。

社会貢献活動がスタート

平成二十五年六月に公布された刑
罰執行猶予制度の導入により、
今年度から保護観察対象者に社会貢
献活動が義務付けられることになり
ました。

法務省保護局によると、社会貢献
活動とは、公共の場所での環境美化
活動、福祉施設での介護補助活動等、
地域社会の利益の増進に寄与する社
会的な活動ということです。

西多摩地区保護司会では、既に福
祉施設での介護支援として、地域活
動部の主催で、あきる野市にある特
別養護老人ホーム「麦久保園」で毎
年春と秋に十名ぐらいの対象者を招
いて社会参加活動の名称で、十六年
間実施しています。

右の活動が当保護司会では福祉施
設での社会貢献活動に移行されるの
ではないかと思われる。

二年間ご協力いただきまして、
ありがとうございました。

春のおとずれは、出会いと別れ
の季節もあります。
早いもので、二年の月日が流れ、
委員改選の年になりました。
会報誌第110号より第115号まで、
西多摩地区保護司会の報告、関係
機関の情報伝達をして参りました。
第115号は顕彰式典や、こころ豊
かな新年会の様子を掲載し、楽し
い思い出となりました。

部会では広報部員十名で、原稿
の割り付け、読み合せ校正など、
多くの事柄を研鑽する機会に恵ま
れました。
その都度、ご執筆していただき
ました皆様に心より感謝申し上げ
ます。

広報部

編集後記

部長 武内 昌一	副部長 齋藤 徹
部員 萩島 初美	部員 井上 基
部員 佐久間 砂由利	部員 重守 基
部員 濱中 賢次	部員 重守 基
部員 福田 宮夫	部員 重守 基
部員 森田 一彦	部員 重守 基